The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪癌セミナーを聞いて
Author(s)	藤田, 昌英
Citation	癌と人. 1974, 2, p. 24-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24244
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪癌セミナーを聞いて

藤　田　昌　英*

昭和48年度の大阪癌セミナーは，例年の通り春秋の2回行われた。春は基礎編であり，大阪商工会議所ホールで「発癌」のテーマの下，阪大，釜洞醇太郎総長の司会によって開かれた。好企画が予期以上の反響を呼び，東京から九州にまで及ぶ，200人以上の参会者があり，また，活溌な討論がみられ，将に大阪で開かれた「日本癌セミナー」の観を呈する盛況であった。演者四氏は，いづれも，その道で最近注目される研究を発表された方々であり，各40分という充分な持時間をかけ，学会では尽くせない詳しい説明は聴く者に深い感銘を与えた。

阪大医学部癌研の野村博士は「ウレタンの胎盤通過による腫瘍及び奇形誘導とその解析」を話され，その基礎的な研究成績とともに，母親が摂取した微量の発癌物質により，その子供が癌になる可能性があると云うセンセーショナルな警告を発せられた。次に，国立ガンセンター所長，杉村博士は，最近完成された，発癌剤，ニトロゾグアニジンによる「実験胃癌」について話された。ネズミなどの小実験動物のみでなく，犬にもこの薬を水に溶かし自然に飲ませることにより胃癌ができることから，日本人に最も多い胃癌の診断，治療の研究に役立つ日の近いことを強調された。京大ウイルス研の市川博士は「白血病細胞の分化」という演題で，ある条件下で白血病を起す癌細胞が，癌でないおとなしい細胞にもどると云う今までの医学の常識を破る事実について話された。最後に，阪大微生物病研究所の豊島教授が「ラウス肉腫ウイルスによる発癌」の演題で，温度により発癌性が現れたり失われたりする癌ウイルス変異株を巧みに使って，細胞が癌化していく過程を分析した結果を話された。

これら四氏のお話は，いづれも一見，実地医学には縁遠い話のようであったが，あるものは癌の診断治療の発展への重要な橋渡しとなりうるうる点で，また，あるものは癌の本質に迫る重要な研究であると云う点で，いづれも，将来，人類の悲願である癌の撲滅に役立つであろうと考える。

秋には癌セミナーの臨床編として，協和醗酵が主催する「第2回制癌剤臨床研究会」の共催を行った。そのテーマその他は下記の通りである。一昔前までは，癌は手術で取り除けない場合は，たゞ見放されたものであるが，近年ようやく，そのような癌にも化学療法が効果がある事が明らかになって来た。セミナーでは，この癌の化学療法の問題点を癌の種類別，臓器別に多数の演者によって論じ合い，有意義な意見の交換が行われた。また「癌化学療法の展望」と題して，癌研究所桜井博士の特別講演が行われた。この秋のセミナーも春に劣らず，約250人の参会者があり盛会であった。伝統ある，この癌セミナーは，癌研究会ならではの企画であり，大阪の癌研究に止まらず日本の癌研究に資するところ大であると信じる。

テーマ：

《臓器別にみた癌化学療法の問題点》

（敬称略）

司会
大阪大学微生物病研究所病院長　芝　　茂

座長
大阪市立大学医学部第2内科　酒井克治
大阪大学微生物病研究所外科　田口鉄男

脳　腫　瘍……
大阪大学医学部脳神経外科　生塩之敬

頭頸部腫瘍……
大阪市立大学医学部耳鼻咽喉科　久保正治

肺　　癌……
兵庫県立病院がんセンター内科　入江一彦

* 大阪大学微生物病研究所附属病院外科

乳　　癌……
大阪市立大学医学部第2外科　藤本幹夫

消化器癌—Ⅰ……
関西医科大学外科　日置紘士郎

〃　　Ⅱ……
兵庫医科大学第4内科　下山孝

〃　　Ⅲ……
京都大学医学部第1外科　鈴本敞

特別講演

—癌化学療法の展望—

癌研究会癌化学療法センター所長
桜井欽夫博士